

砂糖の価格調整業務実績について (令和3砂糖年度)

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、輸入糖、異性化糖および輸入加糖調製品の買入れ・売戻しにより調整金を徴収し、それらを財源として国内のサトウキビ生産者やてん菜糖・甘しや糖の製造事業者に交付金を交付して支援を行うことで内外価格差を調整し、国内の砂糖の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和3砂糖年度（令和3年10月1日～令和4年9月30日<以下「3SY」という>）における砂糖の価格調整業務実績について取りまとめ

たので、報告する。

1. 調整金徴収業務

(1) 3SYの指標価格など

3SYの指標価格などは表1の通り。

(2) 砂糖の需要と供給

令和4年9月に農林水産省が公表した砂糖及び異性化糖の需給見通し（以下「需給見通し」という）によると、3SYの砂糖の需給の実績見込みは表2、3の通り。

表1 3SYの指標価格など

	令和元SY	2SY	3SY
砂糖調整基準価格（円/トン）	153,200	153,200	153,200
前年比（円）	±0	±0	±0
指定糖調整率（%）	37.00	37.00	37.00
前年比（ポイント）	±0	±0	±0

注1：各砂糖年度告示番号（令和元年9月30日農林水産省告示第946号、令和2年9月30日農林水産省告示第1846号、令和3年9月30日農林水産省告示第1637号）。

注2：砂糖調整基準価格とは、輸入粗糖と国内産糖との価格調整の基準となる金額。

注3：指定糖調整率とは、粗糖の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。内外の粗糖のコスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

表2 砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

項目	期間	令和2砂糖年度 (実績)	令和3砂糖年度				計	
			10-12月 (実績)	1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (実績見込み)		
消費量	分みつ糖	1,710	462.3	397.5	445.0	438.6	1,743	
	含みつ糖	35	7.2	11.0	8.6	6.9	34	
	合計	1,745	469.5	408.5	453.6	445.5	1,777	
供給量	国内産糖	分みつ糖	772	382.3	354.9	45.8	-	783
		含みつ糖	10	0.7	6.6	1.6	-	9
		小計	782	383.0	361.5	47.4	-	792
	輸入糖	分みつ糖	1,025	253.8	138.6	298.2	259.0	950
		含みつ糖	8	1.4	2.4	2.2	0.9	7
		小計	1,032	255.2	141.0	300.4	259.9	957
	合計	分みつ糖	1,797	636.1	493.5	344.0	259.0	1,733
		含みつ糖	18	2.1	9.0	3.8	0.9	16
		小計	1,815	638.2	502.5	347.8	259.9	1,748
期末在庫		429	583.4	660.8	573.7	381.4	381	

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：砂糖年度とは、10月から翌年9月まで。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

表3 砂糖及び異性化糖の需給総括表

砂糖 年 度	総需要量		国内産糖生産（供給）量					輸入量	1人当たり 消費量	異性化糖 需要量
	千トン	対前年比 %	千トン	てん菜糖			甘しゅ糖 千トン			
				千トン	白糖 千トン	原料糖 千トン				
昭和50	2,877	5.6	449	224	224	-	213	2,351	25.6	-
60	2,655	0.5	870	574	574	-	285	1,779	21.9	617
平成7	2,435	▲1.5	842	650	491	159	183	1,606	19.4	733
13	2,277	▲0.7	840	663	471	192	170	1,405	17.9	761
14	2,296	0.8	875	721	469	252	143	1,480	18.0	768
15	2,237	▲2.6	904	743	463	280	153	1,364	17.5	791
16	2,229	▲0.4	912	784	477	307	121	1,272	17.5	796
17	2,165	▲2.9	839	699	452	247	132	1,326	17.0	790
18	2,181	0.7	800	643	451	192	148	1,346	17.1	801
19	2,197	0.7	861	683	454	229	169	1,380	17.2	824
20	2,136	▲2.8	878	683	451	232	186	1,222	16.7	784
21	2,099	▲1.7	861	683	433	250	168	1,263	16.5	803
22	2,095	▲0.2	655	490	424	66	156	1,431	16.4	806
23	2,039	▲2.7	674	564	446	118	104	1,375	16.0	812
24	2,026	▲0.6	691	561	416	145	122	1,338	15.9	827
25	2,006	▲1.0	687	551	410	140	129	1,284	15.8	812
26	1,971	▲1.7	737	607	410	197	122	1,220	15.5	792
27	1,983	0.6	813	676	423	253	129	1,235	15.6	818
28	1,957	▲1.3	688	505	400	105	173	1,214	15.4	832
29	1,921	▲1.8	794	656	432	224	128	1,111	15.2	832
30	1,895	▲1.4	745	614	401	213	120	1,183	15.0	824
令和元	1,779	▲6.1	788	650	415	235	127	1,030	14.1	785
2	1,769	▲0.6	783	630	384	246	142	1,025	14.1	750
3(見込み)	1,801	1.2	792	639	386	252	144	957	14.4	764

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：分みつ糖は精製糖ベースの数量、含みつ糖については製品ベースの数量、異性化糖は標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

注2：国内産糖生産量と輸入量の合計と総需要量の差は在庫変動である。

注3：国内産糖生産量の合計には含みつ糖生産量を含む。

注4：総需要量は、分みつ糖消費量、含みつ糖消費量および工業用などの合計である。

注5：輸入量は、通関実績の数値である。

(3) 国際相場などの動き

ニューヨーク粗糖先物相場の3SYの動きは、SY当初の令和3年10月は原油価格の上昇により20.33米セントまで値を上げたものの、その後、ブラジルやインド、タイなどの主要生産国の関係団体からサトウキビの増産見込みが示されたことから、令和4年2月には、1ポンド当たりの月平均価格は18米セント台前半まで下落した(図1)。令和4年2月24日のロシアによるウクライナへの軍事侵攻以降、原油価格が急上昇したことを受け、4月には19米セント台後半まで上昇した。5月以降は、原油価格の下落や中国税関が公表した砂糖輸入量の大幅な減少などを受けて相場は下落傾向で推移し、9月の月平均価格は18米セント台前半で3SYを終えた。

幅な減少などを受けて相場は下落傾向で推移し、9月の月平均価格は18米セント台前半で3SYを終えた。

(4) 粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格など

3SYにおける粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格は表4～6の通り。粗糖の国際相場の変動幅は比較的小さかったものの為替相場がSYを通じて上昇傾向で推移したこともあり、粗糖の平均輸入価格も上昇傾向で推移した。

図1 ニューヨーク粗糖先物相場および為替相場の推移(月平均)

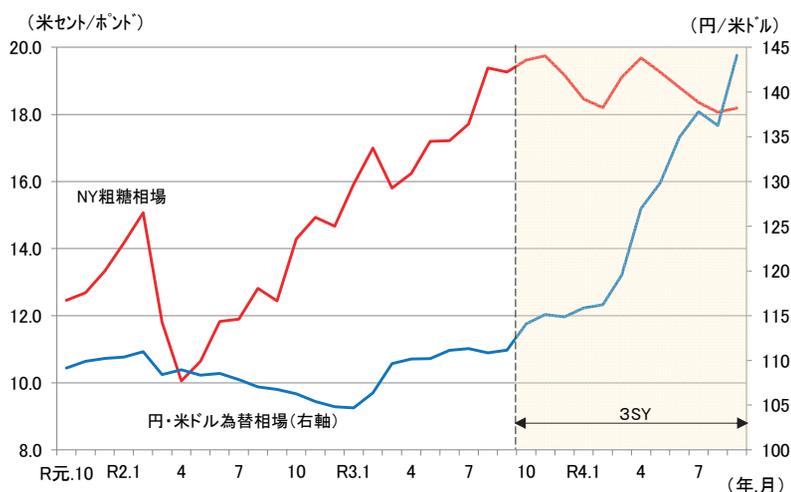


表4 粗糖の平均輸入価格など

期間	粗糖 平均輸入価格 (円/トン)	粗糖(円/トン)				粗糖NY相場		為替 (円/米ドル)	
		買入価格	売戻価格	軽減額	調整金単価	(米セント/ポンド)	(米ドル/トン)		
令和元SY	令和元年 10月～12月	39,300	39,300	78,043	3,400	38,743	11.68	257.58	108.36
	2年 1月～3月	42,070	42,070	79,788	3,400	37,718	12.67	279.22	109.57
	2年 4月～6月	47,040	47,040	82,919	3,400	35,879	13.89	306.28	109.81
	2年 7月～9月	41,100	41,100	79,177	3,400	38,077	10.77	237.53	108.82
2SY	2年 10月～12月	44,640	44,640	81,807	3,000	37,167	12.27	270.50	107.32
	3年 1月～3月	48,340	48,340	84,138	3,000	35,798	14.44	318.32	105.68
	3年 4月～6月	53,150	53,150	87,169	3,000	34,019	16.23	357.70	106.44
	3年 7月～9月	57,980	57,980	90,211	3,000	32,231	16.70	368.06	110.34
3SY	3年 10月～12月	63,840	63,840	93,903	3,000	30,063	18.62	410.52	111.08
	4年 1月～3月	66,840	66,840	95,793	3,000	28,953	19.52	430.34	114.41
	4年 4月～6月	66,090	66,090	95,321	3,000	29,231	18.57	409.39	116.55
	4年 7月～9月	76,740	76,740	102,030	3,000	25,290	19.35	426.59	129.34

表5 加糖調製品糖の平均輸入価格など

期 間		加糖調製品糖 平均輸入価格 (円/トン)	加糖調製品糖 標準価格 (円/トン)
令和元SY	令和元年 10月～12月	106,966	192,810
	2年 1月～3月	111,744	195,579
	2年 4月～6月	115,265	200,545
	2年 7月～9月	112,059	194,609
2SY	2年 10月～12月	114,838	206,915
	3年 1月～3月	118,909	210,764
	3年 4月～6月	121,707	215,768
	3年 7月～9月	123,458	220,793
3SY	3年 10月～12月	128,243	233,914
	4年 1月～3月	136,482	237,111
	4年 4月～6月	136,918	236,313
	4年 7月～9月	151,164	247,665

表6 異性化糖の平均供給価格など

期 間		平均供給価格 (A) (円/トン)	異性化糖 標準価格 (B) (円/トン)	B-A
令和元SY	令和元年 10月～12月	127,991	112,936	▲ 15,055
	2年 1月～3月	128,099	114,620	▲ 13,479
	2年 4月～6月	127,786	117,601	▲ 10,185
	2年 7月～9月	122,656	113,681	▲ 8,975
2SY	2年 10月～12月	123,325	120,452	▲ 2,873
	3年 1月～3月	130,626	122,688	▲ 7,938
	3年 4月～6月	141,653	125,604	▲ 16,049
	3年 7月～9月	151,610	128,531	▲ 23,079
3SY	3年 10月～12月	147,031	132,883	▲ 14,148
	4年 1月～3月	152,777	134,698	▲ 18,079
	4年 4月～6月	161,557	134,244	▲ 27,313
	4年 7月～9月	178,340	140,702	▲ 37,638

注：異性化糖の平均供給価格が異性化糖標準価格を下回った場合に機構売買を行う。

(5) 売買実績

ア. 輸入糖

3SYの輸入糖の売買数量は前SY比6.9%減の99万1000トンとなった(表7)。これは前SYから引き続きコロナ禍による外出自粛や、インバウンド需要をはじめとした国内需要の減退などの影響によるところが大きく、売買数量はコロナ禍以前の30SYの水準まで回復するには至っていない状況にある。

イ. 輸入加糖調製品

3SYの輸入加糖調製品の売買数量は前SY比2.0%減の41万8000トンとなった。

これは、輸入糖と同様、コロナ禍による外出自粛や、インバウンド需要をはじめとした国内需要の減退などの影響によるところが大きい。しかしながら、円安傾向が続いたことからCIF価格(課税標準価額)が上昇したため、売買差額は大幅に増加し前SY比26.2%増の84億1700万円となった。

ウ. 異性化糖

3SYの異性化糖の売買は、全期間を通じて異性化糖の平均供給価格(機構の買入価格)が異性化糖標準価格(機構の実質的な売戻価格)を上回ったことから、売買は行われなかった。

表7 指定糖・輸入加糖調製品の売買実績

SY	輸入糖		輸入加糖調製品		売買差額合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買金額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
令和元	1,040	39,179	464	6,127	45,307
2	1,064	37,880	427	6,669	44,549
3	991	29,283	418	8,417	37,700

注：ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

2. 交付金交付業務など

(1) 甘味資源作物および国内産糖の生産動向

ア. てん菜・てん菜糖

3SYのてん菜は、需給見通しによると、当初は降水量が少ない状態が続き生育への影響が懸念されたものの、令和3年8月のまとまった降雨以降、おおむね順調な生育となった。その結果、てん菜の生産量は前SY比3.8%増の406万1000トン、産糖量も同1.4%増の64万トンとなった（表8）。

イ. サトウキビ・甘しゅ糖

3SYの鹿児島県および沖縄県のサトウキビは、需給見通しによると、島によっては生育初期や夏場の小雨の影響が懸念されたものの、全体としては台風被害などの大きな自然災害もなく、一年を通じて気象条件に恵まれたことから、おおむね順調な生育となった。その結果、両県を合わせた生産量は前SY比1.7%増の135万8000トン、産糖量は同1.4%増の15万1000トンとなった（表9、表10）。

表8 てん菜・てん菜糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和元	56,344	70.74	3,986	16.34	651
2	56,749	68.94	3,912	16.13	631
3	57,509	70.61	4,061	15.76	640

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

表9 鹿児島産サトウキビ・甘しゅ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖 原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和元	9,168	54.28	498	98.86	12.18	60
2	9,598	54.40	522	98.97	12.11	63
3	9,511	57.06	543	99.03	11.93	64

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

表10 沖縄産サトウキビ・甘しゅ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖 原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和元	12,901	52.39	676	91.31	11.80	73
2	12,871	63.23	814	91.20	11.64	86
3	13,791	59.13	815	89.84	11.86	87

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

(2) 交付金の交付状況など

ア. 甘味資源作物交付金(サトウキビのみ)

サトウキビの収穫期はおおむね12月から翌年5月ごろまでであり、製造事業者への売渡し数量に応じて生産者に交付金を交付している。3SYは、交付決定数量がサトウキビ生産量の増加を受け、前SY比0.9%増の127万トンとなり、交付決定金額は、同3.9%増の225億2800万円となった(表11)。

イ. 国内産糖交付金

(ア) てん菜糖の交付状況

てん菜糖製造事業者の販売は年間を通じて行われ、販売数量に応じて交付金を交付している。

3SYは、交付決定数量が前SY比3.2%増の約64万トンとなった。また、交付決定金額は、交付金単価の低下を受けて同10.0%減の141億3500万円となった(表12)。

(イ) 甘しゅ糖の交付状況

甘しゅ糖製造事業者が製造した粗糖は、製糖後それほど期間を置かずに精製糖メーカーに販売されるため、操業時期に対応して交付金を交付している。

3SYは、サトウキビの生育が順調だったことから産糖量も増加し、交付決定数量は前SY比2.4%増の15万2000トンとなった。また、交付決定金額は、交付金単価の低下を受けて同2.7%減の95億3100万円となった(表13)。

表11 甘味資源作物交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)	(参考) 基準糖度帯
令和元	16,730	1,109	19,045	13.1度~14.3度
2	16,860	1,259	21,683	13.1度~14.3度
3	16,860	1,270	22,528	13.1度~14.3度

表12 てん菜糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量		交付決定金額 (百万円)
		年産	数量(千トン)	
令和元	25,675	29	1	14,958
		30	181	
		元	403	
2	25,192	30	2	15,703
		元	236	
		2	384	
3	21,709	元	1	14,135
		2	245	
		3	396	

注：R3SYは表のほか、H30年産30トンの交付決定を行っている。

表13 甘しゅ糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	鹿児島県産		沖縄県産		合計	
		交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)
令和元	—	60	3,704	73	5,172	133	8,876
2	—	62	3,835	86	5,962	148	9,798
3	—	65	3,841	87	5,690	152	9,531

注：交付金単価は島ごとに設定しているため省略する。

(3) 国庫納付金納付業務（てん菜）

てん菜生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、農林水産大臣からの通知に従い、3SY（発生ベース）分として、調整金収入などから132億1600万円を国庫に納付する予定である。

3SYは前SYと比較し調整金収入が減少したため、国庫への納付金額も減少する見込みである（表14）。

表14 国庫納付金納付実績の推移

SY	国庫納付金額 (百万円)
令和元	17,725
2	15,123
3（見込み）	13,216

(4) 砂糖の価格調整業務における収支（見込み）

3SYの収入については、輸入糖は、前SYから続くコロナ禍の影響により、砂糖需要の低迷に伴う輸入糖の売買数量が前SYに引き続き低水準となったことや、砂糖の国際相場の上昇により調整金単価が低下したことから、前SYより86億円減の293億円となった（表15）。

一方、輸入加糖調製品については、前SYより17億円増の84億円の収入となり、国費の増加も含む収

入全体では前SYより66億円減の486億円となった。

支出については、てん菜糖および甘じゃ糖の交付単価の低下、てん菜の国庫納付金額が減少したことなどから、全体としては前SYより28億円減の595億円と見込まれる。

これらの結果、3SYの収支は、109億円の赤字（前SYは71億円の赤字）となり、前SYに引き続き、大幅な単年度赤字となるとともに、マイナス400億円を超える期末残高（3SY期末：▲445億円）となることが見込まれる（図2）。

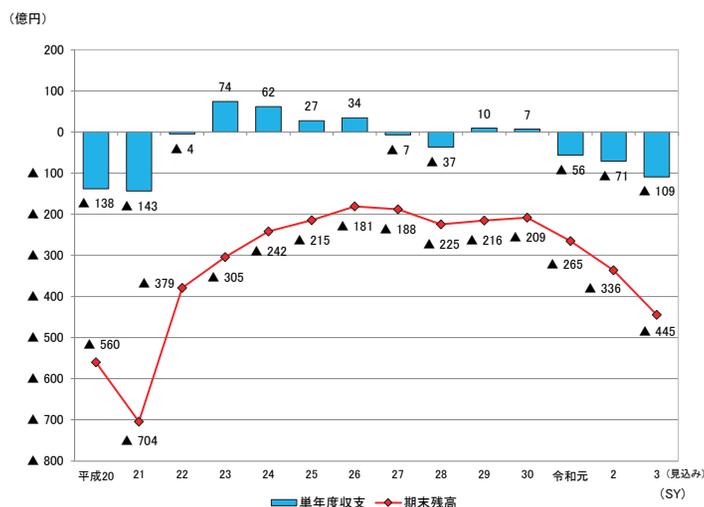
表15 3SY収支前年度比較

(単位：億円)

	令和元SY	2SY	3SY (見込み)	対2SY 増減
収入	550	552	486	▲ 66
輸入糖	392	379	293	▲ 86
加糖調製品	61	67	84	▲ 17
国費	97	107	109	▲ 2
支出	606	623	595	▲ 28
てん菜糖	150	157	141	▲ 16
甘じゃ糖	89	98	95	▲ 3
てん菜(国庫納付)	177	151	132	▲ 19
さとうきび	190	217	225	▲ 8
その他	0	1	1	0
単年度収支	▲ 56	▲ 71	▲ 109	▲ 38

注：ラウンドの関係で合計および増減が一致しない場合がある。

図2 砂糖の調整金収支の推移



注1：ラウンドの関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。

注2：H22SYに糖価調整緊急対策交付金329億円を充当（単年度収支には含まない）。